



# Monthly Pediatrics News Letter

第75号

令和5年7月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：保科隆之（小児科通信係）

## <はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、日ごろの業務および勉強ご苦労様です。

梅雨時のため、じめじめと蒸し暑い日が続いています。梅雨が終わると暑い夏になりますが、今年はエルニーニョ現象が発生する可能性が高く、その場合は、梅雨明けが遅く、冷夏になりやすいそうです。体力が奪われる猛暑もいやですが、雨ばかりの夏もいやですね。勝手ではありますが、程よい暑さで天気も良い夏が来ることを願っています（かなり都合が良いですが…）。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作責任者 ([hoshina@med.uoeh-u.ac.jp](mailto:hoshina@med.uoeh-u.ac.jp)) までお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

## <6月の医局行事>

6月2日 令和4年第2回産業医科大学小児科入局説明会

医学部6年生を対象にした医局説明会を開催しました。

3名の5年生を含めて、13名が参加してくれました!! 参加者がとても多く喜んでいきます。

6年生は7月初めまでに進路を決めることとなりますが、ぜひ小児科を選んでくれると嬉しいです。

医局員一同、お待ちしております!!

6月10日 第521回日本小児科学会福岡地方会

九大病院ウエストウィング棟・臨床大講堂とWebのハイブリッド開催でした。大内田先生が、「肘窩の静脈穿刺後に入院加療を要する穿刺部皮下血腫を認めた重症血友病Aの1例」という演題を、煙草谷先生が、「外国籍妊婦の北九州市内の産婦人科受診時における現状調査」という演題をそれぞれ発表し、中島生と重田先生が一般演題の座長をそれぞれ務めました。また、眞鍋先生がJCHO九州病院からの演題として、「左肺動脈欠損に対して消退動脈管を介した肺動脈血行再建術を行った1例」という演題を発表しました。次回

は9月9日に九大百年講堂とWeb配信のハイブリッドで開催されます。

- 6月19日 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス  
担当は新生児グループで、菅先生と重田先生が、「早産児の退院前MRI画像検査で点状白質病変（punctate white matter lesions, PWML）を認めた際の解釈 –当院NICUにおける8年間の症例検討–」というテーマで発表しました。
- 6月22日 産業医科大学小児科セミナー  
担当は感染症・免疫グループで、斉宮先生（腎グループ）と永汐先生が、「上部尿路感染症の診断・治療・原因精査 –VURを的確に見つけるためにはどうしたらよいか？–」というテーマで発表しました。

#### <7月の医局行事予定>

- 7月10日 19時～ 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス  
演題名 食物経口負荷試験の重要性と当科での実施状況  
演者：田中 健太郎、川村 卓、神田 里湖、村川 沙織  
場所 産業医科大学大学2号館2階 2208教室  
7月のクリニカルカンファレンスは、感染症・免疫グループが担当で、アレルギーをテーマにした発表を行います。
- 7月27日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー  
演題名 小児がん患児における在宅支援 ～現状と問題点～  
演者：本田 裕子、中島 健太郎、守田 弘美、水城 和義  
場所 産業医科大学大学2号館2階 2208教室  
7月のクリニカルカンファレンスは、血液グループが担当です。

いずれのカンファレンスも会場とZoomを使ったWeb配信のハイブリッド開催です。遠方からも聴講できますので、興味のある方は医局まで連絡してください。視聴方法をお知らせします。

#### <7・8月開催予定の学会・研究会>

7月および8月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。新型コロナウイルス流行の影響で、多くの学会・研究会がWeb開催または現地とWebのハイブリッド開催でしたが、現地開催のみとなった学会も増えてきました。

- 7月9-11日 第59回日本周産期・新生児医学会（名古屋・名古屋国際会議場）  
参加者：菅、田中（発表予定）
- 7月15-16日 第39回日本小児臨床アレルギー学会（福岡・福岡国際会議場 + Web）

発表予定者：川村、神田

7月16日 第57回小児インスリン治療研究会（大阪・ナレッジキャピタル + Web）

参加者：山本、齋藤（発表予定）

7月17日 第28回日本小児・思春期糖尿病学会（大阪・ナレッジキャピタル + Web）

参加者：山本、齋藤（発表予定）

7月21日 AbbVie Web Seminar 肝臓 2 weeks Seminar in 北九州大分 ～Day 5～

（Web開催）

講演者：保科

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を聞きたい方は、小児科医局に電話（093-691-7254）をいただくか、メール（[hoshina@med.uoeh-u.ac.jp](mailto:hoshina@med.uoeh-u.ac.jp)）をお送りください。

#### <論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前の入っている論文の掲載情報です（5・6月掲載分）。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めています（PubMedに自分の名前が出てくると嬉しいですよ）。このことは、市中の総合病院ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みましょう。

1. Taku K, Hoshina T, Honda Y, Kusuhara K. Genetic similarities between *Escherichia coli* in colonization and bloodstream infection in pediatric cancer patients with febrile neutropenia. *Pediatr Int* 2023; 65: e15542.

2. Ogawa M, Hoshina T, Abushawish A, Kusuhara K. Evaluation of the usefulness of culture of induced sputum and the optimal timing for the collection of a good-quality sputum sample to identify causative pathogen of community-acquired pneumonia in young children: A prospective observational study. *Microbiol Immunol Infect* 2023, in press.

3. Nagao A, Tokugawa T, Matsuo Y, Shirayama R, Morishita E, Nozima M, Nishida Y, Fukutake K. The length of the sanitary napkins can be used as a handier index than pictorial blood loss assessment chart to predict the heavy menstrual bleeding. *J Obstet*

Gynaecol Res 2023, in press.

<おわりに>

小児科通信第 75 号はいかがでしたか。掲載した情報が皆さんの役に立てば嬉しいです。

「6月の医局行事」の項にも記載しましたが、6月2日に開催した第2回医局説明会には10名の6年生が参加してくれました（5年生も3名参加）。医局での小児科紹介が終了した後は、大学近隣の飲食店で情報交換会も開催しました。過去3年は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、飲食を伴う説明会が開催しにくく、医局でのスライドを用いた説明会と少人数での短時間の食事会のみだったため、小児科の魅力を十分伝えられていないのではと感じていましたが、今回は学生の皆さんといろいろなことを話すことができ、自己満足かもしれませんが、これまで以上に小児科の良さを伝えられたのではないかと感じています。最終的には6年生の皆さんの意思次第ですが、多くの方が将来の進路として小児科を選んでくれることを願っています。そして小児科を選んできた皆さんには、プロフェッショナルな小児科医になつてもらえるようしっかり指導させていただきます。

これまでの通信にも記載しましたが、最終的にはこの通信を読んでいる学生と初期研修医の皆さんが大学の医局に所属し、一緒に働けることが上級医の望みです。また、すでに小児科医として働いている皆さんが、日常診療や学会参加を通じてより一層レベルアップされることを願っています。

夏の風物詩にはいろいろありますが、今年はいろいろな催しが例年通りに開催されるのではないのでしょうか。いろいろと忙しいとは思いますが、花火大会や祭りなど普段とは違う雰囲気味わって気分転換することも大事だと思いますので、興味ある方は出かけてみてください。

文責：保科 隆之（小児科通信制作係）